

第5回

データマネジメント人材の育成に関するタスクフォース

2025年11月6日

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

独立行政法人 情報処理推進機構

議事次第

1. 開会（25分）

- （1）タスクフォースの進め方
- （2）DSS改訂スケジュール案

2. 議事（90分）

- （1）データマネジメント類型の新設
- （2）ロールとスキルの定義

3. 閉会（5分）

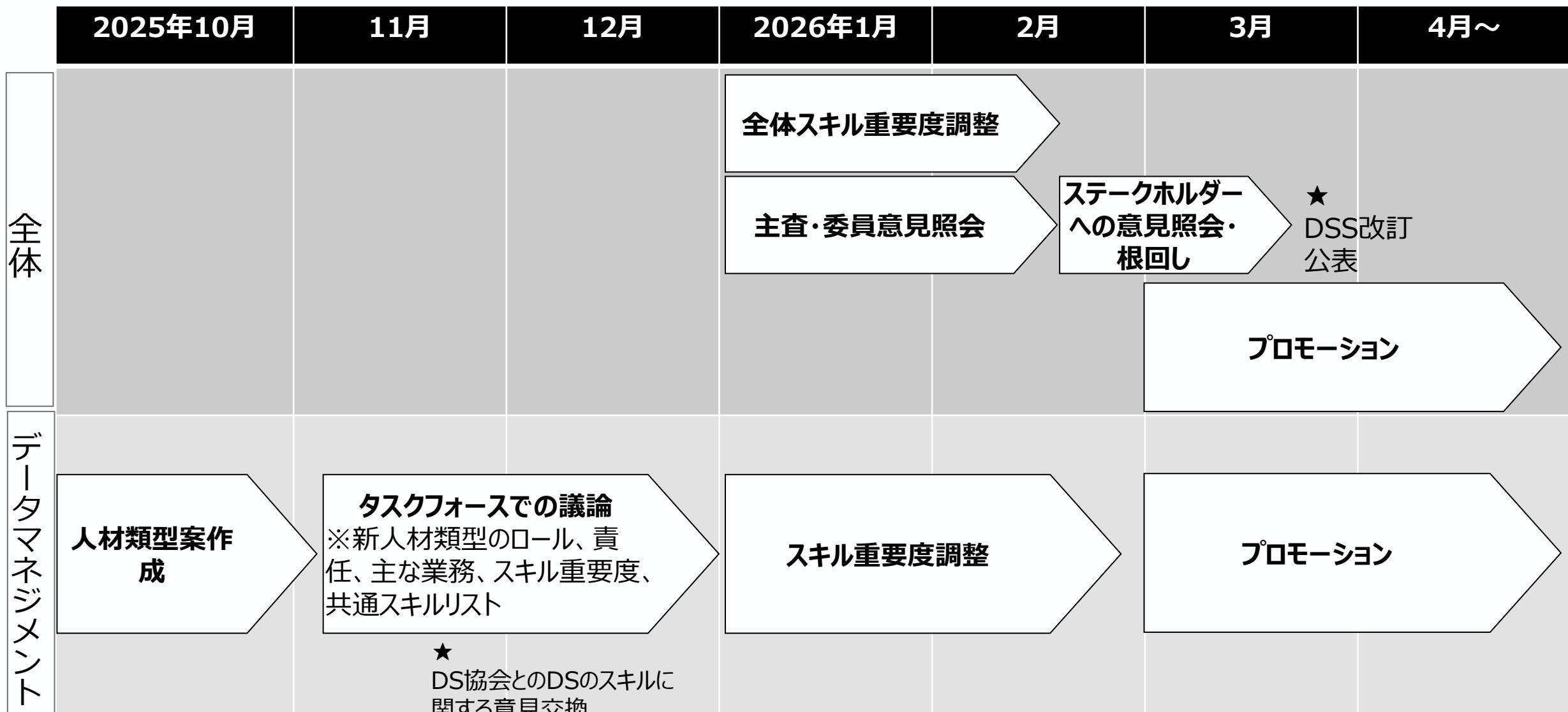
1. 開会

(1)タスクフォースの進め方(第5回～8回の流れ)

- 計4回の論点・ゴール・議題は以下のとおり

論点	タスクフォース進め方	
■ DSS ・「データマネジメント」の新設	第5回 (11/6(木)15-17)	<ul style="list-style-type: none">• DSS意見交換①<ul style="list-style-type: none">- 類型の新設・定義- ロールとスキルの定義
	第6回 (11/27(木)15-17)	<ul style="list-style-type: none">• DSS意見交換②<ul style="list-style-type: none">- ロールとスキルの定義 (続き)- データサイエンティスト類型関連の改訂• プロモーション
ゴール		
■ DSS ・「データマネジメント」に関する各ロールの 様式及びデータ利活用に関する共通スキ ルリストの更新案が概ね固まっている	第7回 (12/15(月)15-17)	<ul style="list-style-type: none">• DSS意見交換③<ul style="list-style-type: none">- スキルの定義 (続き)- データサイエンティスト類型関連の改訂 (続き)• 育成方法の意見交換• まとめ
	第8回 (1/8(木)15-17)	<ul style="list-style-type: none">• (予備)

(2)DSS改訂スケジュール案



データマネジメントにおけるDSS改訂の方向性

DSSの改訂の事務局案概要（今回の議題内容）

1. データマネジメント類型を新設する。



データマネジメントの内容や重要性を周知し、人材育成を含む企業の活動を促進させるため、既存の類型とは分けてデータマネジメント類型として明確化する。

2. データマネジメントに求められる機能・内容を整理し、その内容を「データアーキテクト」「データスチュワード」「データエンジニア」の3ロールとして区分・定義する。



データマネジメントの仕組みの構築・運用などに関する具体的な活動を担う役割をDSSのロールとし、データマネジメントを通じたデータの利活用・価値創出に必要な機能・役割を明確化する（データエンジニアについては、既存のデータサイエンティスト類型に存在するデータエンジニアを新設のデータマネジメント類型に統合する）。

3. データマネジメントのロールに必要なスキルの共通スキルリストへの反映への方向性を確認する。



既存のスキル項目では記載できていない各ロールの主要スキルを、サブカテゴリとともに新設する。その際、共通スキルリストの考え方やDSSの活用状況を踏まえて本質的な検討を行うこととする（スキル項目の詳細は次回以降に議論）。

上記の事務局案について、次ページ以降の資料を踏まえて議論させていただきたい。

2. 議事(1)：データマネジメント類型の新設

(1)データマネジメント類型の新設

類型新設（6類型化）の理由

◆データマネジメントの活動は、既存の5類型の関わりや、データ活用に関わる人材としてデータサイエンティストとの区別などDSSへの反映の仕方は様々考えられるが、以下のような理由から既存の類型から独立させてデータマネジメント類型として新設・定義することとしたい。

◆データマネジメントの内容・重要性の明確化

データやAIの活用の上で課題となっているデータマネジメントの内容や重要性を明確にし、人材育成を含め関連する企業の活動を促進させたい。（TFの当初の目的）

◆人材の役割やスキルの違い・特徴の明確化

「データを利活用できるようにする人材（データマネジメント）」と「データから示唆を見出す人材（データサイエンス）」の役割やスキルの違い・特徴を明記し、それぞれを両輪で回すことが重要であることを周知したい。

◆想定される人材ニーズの違いへの対応

人材の育成や確保（求人）の観点で、「データを利活用できるようにする活動」と「データから示唆を見出す活動」は人材のニーズが異なる。それぞれ区別して定義することで活用しやすい内容としたい。

◆データマネジメント類型を新設した上で、既存の各類型との連携内容や、データサイエンティスト類型側の見直しなどについてもあわせて検討する。

(2)データマネジメント類型の定義

データマネジメントとしての機能・役割の概要

- ・データの利活用、データからの価値創出に関する組織全体への仕組みの浸透や行動の促進
- ・データの安全性・信頼性の確保、および継続的な収集・提供（流通）の仕組みの設計・実装・運用
- ・人間だけでなくデジタル技術・サービスなどにとっても利活用可能で価値のある状態へのデータの整備

- ◆単なるデータの保管・管理ではなく、他の人材（DSSの類型・ロールおよびそれ以外のすべての人材含む）を巻き込み、組織全体としてデータからの価値創出を可能にする攻めのデータマネジメントを実現する内容であることも定義の中でも表現する。
- ◆組織がデータを利活用するためには、その組織に属する人材が安心してそのデータを扱える状態にする必要がある。そのためのその環境を整備し、データを組織に流通させることをデータマネジメント類型の定義として記載する。

DSSに定義する上での留意点

- ◆DSSの利用者は、IT・デジタルの技術者やデータ関係の専門なども含まれるが、デジタル人材育成を担うDX関連部門や人事部門、または教育事業者などの担当者や、これから各類型の専門性を高めることを目指す人材を想定している。
- ◆そのため記載する内容は、それらの人材が育成施策等の検討や学びのきっかけとして活用できるよう、できるだけわかりやすい（理解に専門性を必要としない）表現とすることに留意する。

データマネジメントとは

改訂案

定義

データの安全性・信頼性の確保と継続的な収集・提供（流通）の仕組みの設計・実装・運用を行い、組織全体の人材を巻き込んだデータの利活用・価値創出を促進する人材

データ利活用・価値創出のためであることを記載

◆ DXの推進における「データマネジメント」とは

- ✓ ・データにより新たな価値を創造するためには、組織の事業・業務プロセスにおいて発生するデータを人やシステムなどが利活用できる状態を継続的に確保し、運用していくことが重要となる。そのためにデータの安全性や信頼性を確保し、またそのデータを組織の様々な目的に対して再利用可能にした上で、継続的に収集・提供させる仕組みの設計・実装・運用をすることが求められる。
- ✓ ・「データマネジメント」の類型は、そのためのデータ定義や運用ルールを組織に対して浸透させ、データを人間だけではなくデジタル技術・サービスいずれにとっても利活用可能な状態に整備し、データ基盤などのアーキテクチャの設計・整備・実装とともにデータの安全性・信頼性の確保と継続的な収集・提供を可能にし、さらに組織全体の人材を巻き込みデータの利活用・データからの価値創出の行動を促進させる役割を担う。

◆ 他の5類型との連携による組織基盤としての「データマネジメント」の構築

各人材との連携・巻き込んだ活動とすることを記載

- ✓ 「データマネジメント」の実行においては、組織の事業や戦略を理解し、また他の類型・ロールと連携し、組織全体にデータの重要性に関する理解や利活用・価値創出の行動を促進し、浸透させることが重要となる。
- ✓ そのためには、組織の事業戦略（データ戦略を含む）や製品サービスの設計などにおけるビジネスアーキテクトやデザイナーとの連携、データからの価値創出の具体化・高度化のためのデータサイエンティストとの連携、各種システム等との連携・環境構築におけるソフトウェアエンジニアとの連携、データや関連システムの安全性に関するポリシー・ルール設計等におけるサイバーセキュリティとの連携を実行し、さらにそれ以外のすべての人材も巻き込んで組織基盤としてのデータマネジメントの仕組みを構築することが求められる。

データマネージメントとは | 期待される役割 (1/2)

改訂案

- 「データマネジメント」に具体的に期待される役割や求められるアクションは、以下のとおり。

データ利活用・価値創出のためであることを記載

◆ 組織の全ての人材に対しデータの利活用・価値創出の行動を促進させ、組織全体の変革を推進する

- データマネジメントは、単なるデータの保管や管理だけではなく、データの利活用や新たな価値創出のための組織基盤として構築することが求められる。そのため、組織に属する人材全てに対して、データの利活用やデータからの価値創出の重要性やデータマネジメントの仕組みの理解を浸透させ、実際にデータ利活用・価値創出の行動を起こさせることが重要となる。
- データの利活用・価値創出を促進するデータマネジメントを構築・浸透させるためには、データマネジメント類型の人材が中心となりながらも、他の類型の人材を含むすべての人材を巻き込み、データを起点とした変革の行動のきっかけを作り、変革の触媒となることで組織全体の変革を推進し続けることが求められる。

データの収集・提供の仕組みについて記載

◆ 人間やデジタル技術・サービスが安心して利活用できるようなデータの整備やデータの収集・提供の仕組みの構築

- 組織がデータを十分に利活用するためには、そのデータがセキュリティ基準や関係法令に照らして問題がないか、他の組織や人間が収集・入力したデータであっても自組織と同じ基準で利用できるかなど、様々な観点での品質が担保されている必要がある。そのためデータマネジメントでは、組織のセキュリティ基準や国内外の関連法規制への対応、データをさまざまな目的に再利用可能にするためのルール（用語、アクセス権限、運用ルール等）を自らが遵守するとともに組織内に対しても浸透させ、データの安全性や信頼性の確保が必要であることを周知し、事業・業務プロセスにおいて発生するデータを適切に収集・管理し提供する環境を構築することが求められる。
- そのような環境をデータ整備、データの品質管理・モニタリングの仕組みやデータ基盤、データ収集・提供のアーキテクチャなどの設計・構築・実装や運用などによって実現させることが必要であり、またその際のデータは人間だけでなく、AIなども含むデジタル技術やサービスにとっても利活用可能なデータや仕組みとすることも重要となる。

2. 議事(2)：ロールとスキル定義

(3)データマネジメントにおけるDSS改訂の方向性

再掲

DSSの改訂の事務局案概要（今回の議題内容）

1. データマネジメント類型を新設する。



データマネジメントの内容や重要性を周知し、人材育成を含む企業の活動を促進させるため、既存の類型とは分けてデータマネジメント類型として明確化する。

2. データマネジメントに求められる機能・内容を整理し、その内容を「データアーキテクト」「データスチュワード」「データエンジニア」の3ロールとして区分・定義する。



データマネジメントの仕組みの構築・運用などに関する具体的な活動を担う役割をDSSのロールとし、データマネジメントを通じたデータの利活用・価値創出に必要な機能・役割を明確化する（データエンジニアについては、既存のデータサイエンティスト類型に存在するデータエンジニアを新設のデータマネジメント類型に統合する）。

3. データマネジメントのロールに必要なスキルの共通スキルリストへの反映への方向性を確認する。



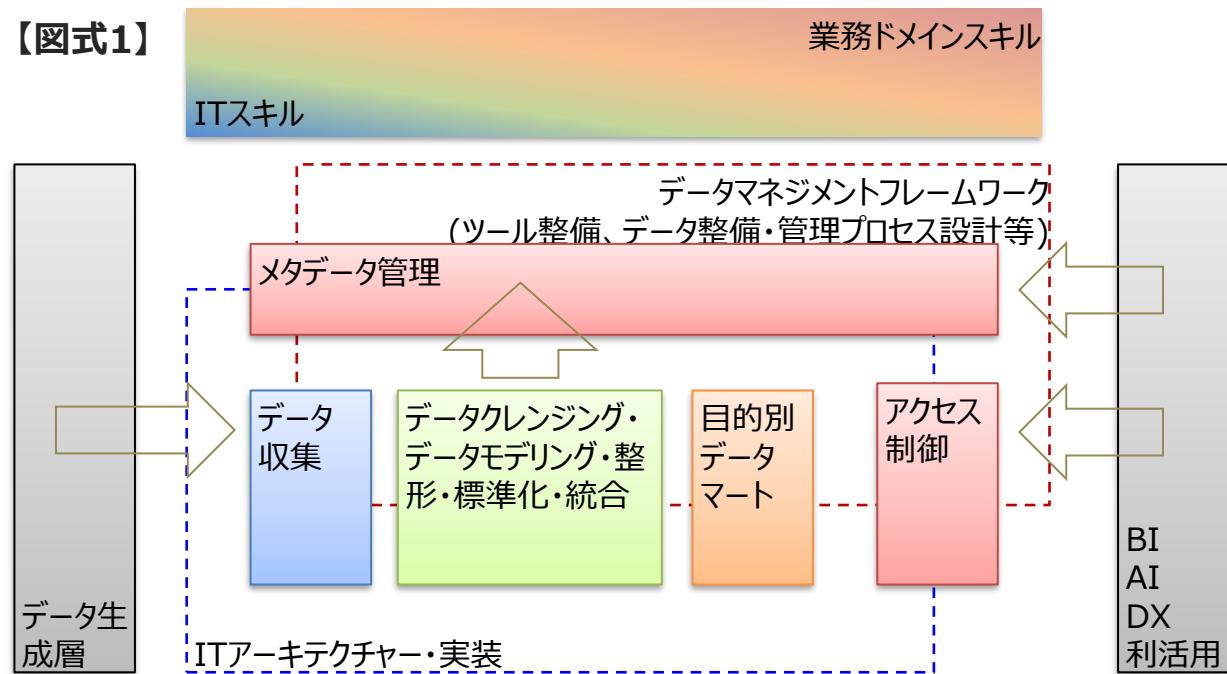
既存のスキル項目では記載できていない各ロールの主要スキルを、サブカテゴリとともに新設する。その際、共通スキルリストの考え方やDSSの活用状況を踏まえて本質的な検討を行うこととする（スキル項目の詳細は次回以降に議論）。

上記の事務局案について、次ページ以降の資料を踏まえて議論させていただきたい。

1. データ基盤モデルと必要スキル傾向

- 一般的なデータ基盤・機能の簡易モデルは以下図式1の通り
- データマネジメント機能の内、メタデータ・アクセス制御・目的別データマートの設計・整備等は、業務ドメインスキルが必須。
- 一方で、収集・クレンジング・統合等は、SQLに代表されるITスキルが必要
- またデータマネジメントのポリシーメイク、データマネジメント業務に必要なツール選定と運用方法、ルール・ガイドラインの整備なども非日常的機能も必要
- 同様に、データ基盤の実装設計やセキュリティ保証、時にEA的なシステム配置などの検討・設計も必要となる

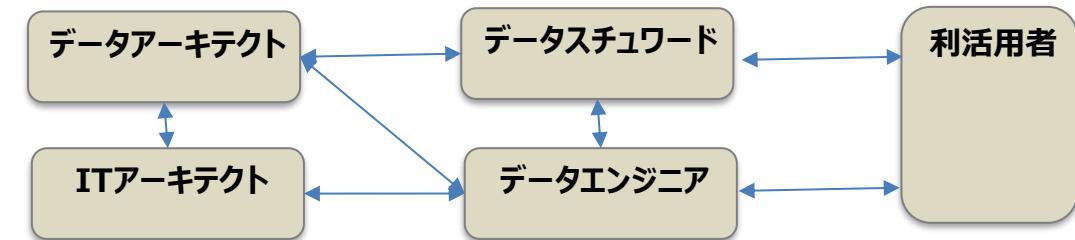
【図式1】



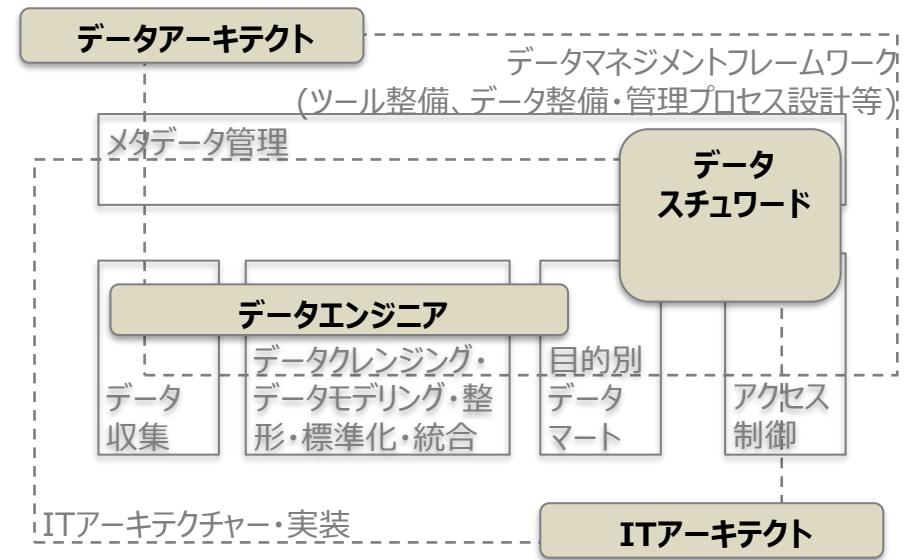
2. データマネジメント人材の役割・職業名定義

- 同モデルに従い、グローバル標準な職業をマップを図式2で示す
- 各役割上、主なコミュニケーションパスを図式3に示す

【図式3】



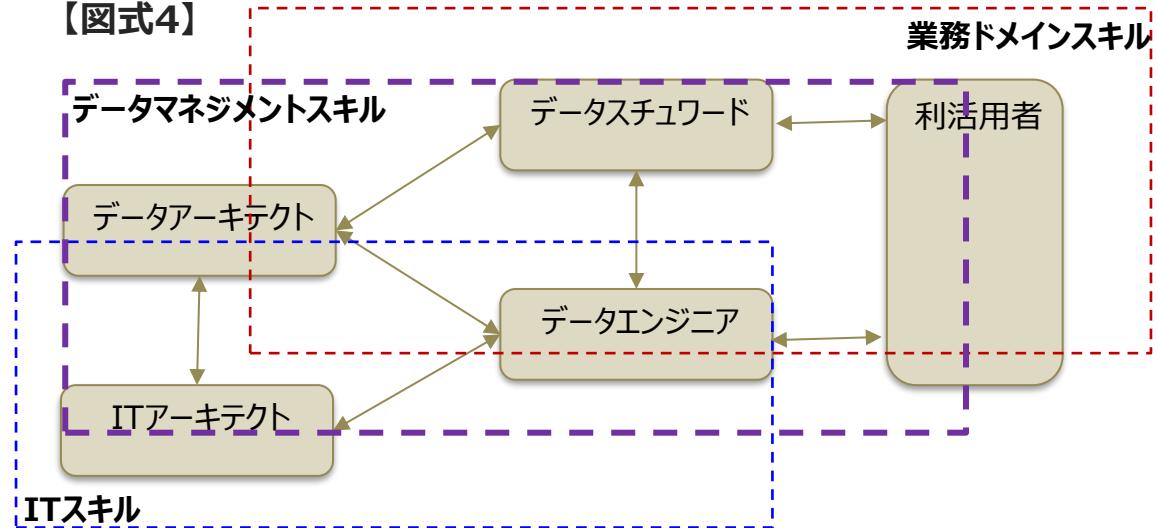
【図式2】



3. 業務ドメインスキル×データマネジメントスキル×ITスキルの関係

- 各役割・職業に必要なスキルの簡易マップは以下の通り

【図式4】



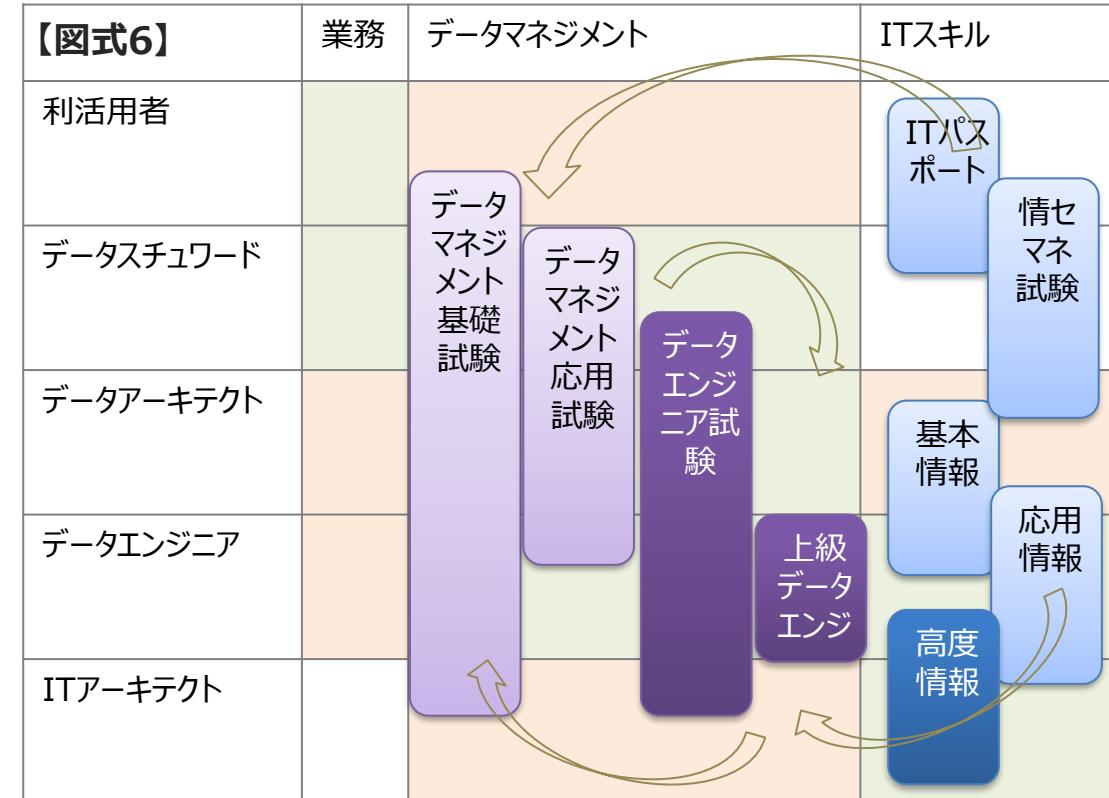
【図式5】

	業務ドメイン	データマネジメント	ITスキル
利活用者	MUST	SHOULD	
データスチュワード	MUST	MUST	
データアーキテクト	SHOULD	MUST	SHOULD
データエンジニア	SHOULD	MUST	MUST
ITアーキテクト		SHOULD	MUST

4. データマネジメントスキルと試験・資格の関係

- 知識・技能型の試験、職業資格型の試験に多くは大別される
- 知識・技能型として、データマネジメント {基礎・応用} 試験を設置
ITパスポート、情セマネ、からの能力開発・キャリアパス
- 職業資格型として、データエンジニア {（基本）・上級} 試験を設置
既存IT系エンジニアからの能力開発・キャリアパス
- ビジネス → データ ← IT、両面を企図

【図式6】





5. DSS標準スキルにおけるデータマネジメントスキル定義

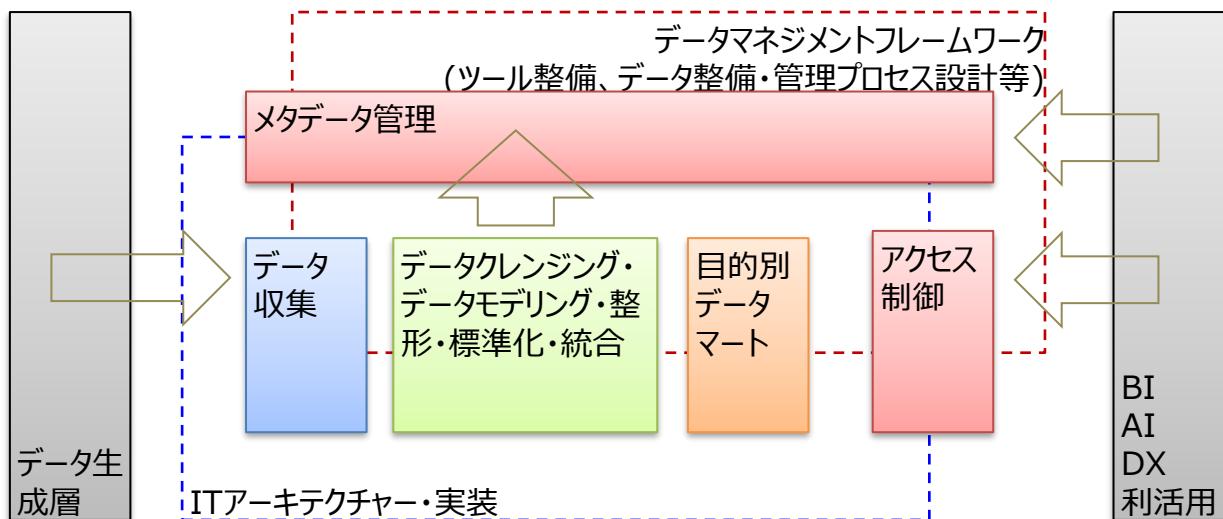
藤咲委員提供資料

➤ データマネジメントに必要なスキルをDSS標準スキルとして定義すると以下の通り

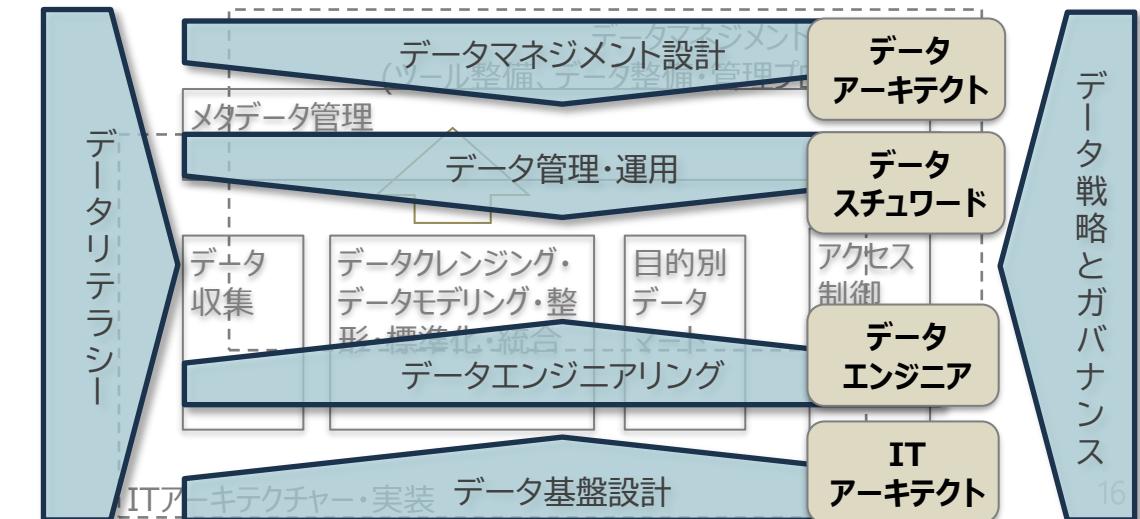
サブカテゴリー	スキル項目	スキル略称	内容
データマネジメント	データ戦略とデータガバナンスポリシー策定	データ戦略とガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 企業・組織全体のデータ戦略を策定し、データの価値を最大化するための方針を定めるスキル データの管理・利用に関するガバナンスポリシーを設計し、組織全体で遵守するスキル
	データリテラシー（関連法・社内規定の理解と実践）	データリテラシー	取り扱うデータに関する法令等やプライバシー保護に求められる要件の理解とその実践に関するスキル
	データ品質管理・メタデータ整備・アクセス制御	データ管理・運用	<ul style="list-style-type: none"> データ品質やメタデータの現状を把握・分析し、るべき状態を定義して、維持・向上を行うスキル データへのアクセス権限・ルート(仕組み)を設計し、セキュリティを確保するスキル データの標準化やクレンジングの方針を定め、データの整合性と品質を確保するスキル
	データエンジニアリング（収集・統合・提供）	データエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> データパイプラインやデータマートを設計し、データの統合・分析を効率化するスキル 複数のシステム間・企業間でデータ連携を設計し、一貫性と整合性を確保したデータを提供するスキル
	データマネジメントの仕組みの設計と改善	データマネジメント設計	<ul style="list-style-type: none"> データの収集、保存、利用、廃棄に関するプロセスを策定し、適切に監視・管理するスキル データモデルやデータフローを設計し、データの流れを最適化するスキル
	データ基盤の設計・構築・運用	データ基盤設計	データ基盤の設計を行い、データの収集・保存・分析を効率的に行うための環境を整備するスキル

➤ 一般的なデータ基盤・機能の簡易モデル（図式1）にデータマネジメントスキルおよび職業名をマッピングすると以下の通り

【図式1】



【図式7】



共有事項：共通スキルリストの考え方と反映への方向性

DSSにおける共通スキルリストの考え方(1/3)

- ◆DSS策定当初の共通スキルリストの考え方は以下の通り。
- ◆詳細・複雑すぎて各企業（教育事業者含む）が活用しにくくならないよう、全体の整合やボリュームを調整し策定している。

共通スキルディクショナリーの考え方①

2022年デジタルスキル標準検討WG資料

- 共通スキルディクショナリーは、5つの人材類型共通で使用する
 - ・ 5つの人材類型のいずれの人材像も使用しない項目が残ることも想定する。
- スキルカテゴリは5つの人材類型との対応を考慮して定義
- スキルカテゴリはDXリテラシー標準との対応も考慮して定義
- 各スキルカテゴリは以下の考えで2つのサブカテゴリに分ける
 - ・ 1番目: 主要な活動を大くくりに整理したもの
 - ・ 2番目: それを支える主要な要素技術、手法を大くくりに整理したもの
- 全体のスキル項目数は、最終的に50を超えない程度に留める

DSSにおける共通スキルリストの考え方(2/3)

◆DSSのスキル項目は、各ロールで重要度を設定しているが、スキル項目自体は各類型・ロール共通の内容として定義している。

各ロール定義

第Ⅲ部 第3章 人材類型・ロール データサイエンティスト										
人材類型	データサイエンティスト									
ロール	データビジネスストラテジスト									
DXの推進において担う責任	事業戦略に沿ったデータの活用戦略を考えるとともに、戦略の具体化や実現を主導し、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する									
主な業務										
<ul style="list-style-type: none"> ・自社の事業戦略におけるデータの活用の是非の判断や事業戦略を実現するためのデータ活用戦略を策定する ・データ活用戦略を実現するまでのプロセスを企画・主導し、他の人材類型や他のロールとの連携のコーディネート、データ活用領域のプロジェクトのマネジメントを行つ ・現場部門と一緒にデータ活用の業務設計や見直しを行い、新規事業の創出や現場業務の変革・改善を達成する ・取組みの成果や課題を把握し、次の取組みにつなげる 										
必要なスキル	データ分析	データ活用戦略策定・実行	b	データ理解・活用	a	デジタルコマース	ビジネス戦略策定・実行	b	フレジタルビジネス	c
	戦略・マネジメント	データ活用戦略策定	c	データ活用戦略策定	a	データ活用戦略策定	データ活用戦略策定	a	データ活用戦略策定	c
	データ活用	データ活用戦略策定	c	データ活用戦略策定	a	データ活用戦略策定	データ活用戦略策定	a	データ活用戦略策定	c
	AI・データサイエンティス	システムエンジニアリング	c	AI・データサイエンティス	c	AI・データサイエンティス	AI・データサイエンティス	c	AI・データサイエンティス	d
	エンジニアリング	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	c
	ビジネス変革	プロジェクトマネジメント	b	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	b
	ビジネス調査	ビジネス調査	b	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	b
	ビジネスモデル・プロセス	ビジネスモデル設計	b	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	b
	データエンジニアリング	ビジネスアリス	b	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	b
	データエンジニアリング	検証(データ活用視点)	b	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	データ活用基盤設計	c	データ活用基盤設計	b
必要なスキル	データ分析	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データ活用	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	AI・データサイエンティス	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	エンジニアリング	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	ビジネス変革	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	ビジネスモデル・プロセス	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データエンジニアリング	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データエンジニアリング	検証(データ活用視点)	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データエンジニアリング	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データ分析	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
必要なスキル	データ分析	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データ活用	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	AI・データサイエンティス	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	エンジニアリング	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	ビジネス変革	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	ビジネスモデル・プロセス	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データエンジニアリング	データ活用視点	c	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データエンジニアリング	検証(データ活用視点)	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データエンジニアリング	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
	データ分析	データ活用視点	b	データ活用視点	c	データ活用視点	データ活用視点	c	データ活用視点	b
【重要な度】										
a 高い実践性と専門性が必要										
b 一定の実践性と専門性が必要										
c 低い実践性と専門性が必要										
d 低実践性で知識性が必要										
z 役割や状況に応じた実践性が必要										
w 判定基準が明確でない場合										
x 位置づけに難解性がある場合										
y 重要な知識性が必要										
z 役割や状況に応じた実践性が必要										

スキルごとに「重要度」を定義 ※レベルではない

共通スキルリスト

共通スキルリストの全体像	
● 全人材類型に共通する「共通スキルリスト」は、DXを推進する人材に求められるスキルを5つのカテゴリー・12のサブカテゴリーで整理している	
● 各カテゴリーは2つ以上のサブカテゴリーに分け、1つ目では主要な活動を、2つ目以降ではそれを支える要素技術と手法を、大くりに整理。	
カテゴリー	サブカテゴリー
技術・マネジメントシステム	システム構築実装・実行
	プロジェクトマネジメント
	データ活用
	システムエンジニアリング
ビジネスモデル・プロセス	ビジネス創造
	ビジネスモデル設計
	ビジネスプロセス
	組織(ビジネス観点)
デザイン	マーケティング
	ブランディング
	顧客・ユーザー理解
	価値発現・実現
データ活用	データ活用技術の活用
	データAI活用戦略
	データ活用実施の設計・事業実装・評価
	統計分析・多変量分析・データ可視化
AI・データサイエンス	機械学習・深層学習
	データ活用設計・開発・運用
カテゴリー	サブカテゴリー
ソフトウェア開発	コンピュータイング
	データ処理
データ活用	データ活用技術実装
	データ活用実施
	データ可視化
	Webアーキテクチャ・基盤技術
データ分析	プロセス・ルール・基盤技術
	ハイブリッドシステム開発
	クラウド・AI技術活用
	SRE手法
データ活用	サービス運用
	その他の技術
セキュリティ	データセキュリティ
	データ暗号化技術
	データ保護・監査
	セキュリティ・基盤技術
セキュリティ	セキュリティ・体制構築・運営
	セキュリティ・マネジメント
	インシデント対応・事業継続
	プライバシー
セキュリティ	セキュリティ技術
	セキュリティ・計画・構築
	セキュリティ・運用・保守・監査
	リテラシー
データ分析	データ分析・設計
	データ分析・運用
データ分析	コンセプチュアルスキル
	スキル

各類型・ロール共通の
スキルリストとして定義

スキル内容の他、カテゴリー、サブカテゴリー、学習項目例としての詳細を記載

スキル詳細（カテゴリー、サブカテゴリー、スキル項目、内容、学習項目例）

第Ⅲ部 第2章 DX推進フキドリ標準の構成

データ活用

カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目	内容（スキル項目ごとの説明）	学習項目例
データ活用	データ・AIの戦略的活用	データ理解・活用	<ul style="list-style-type: none"> グラフ・図表等を含む統計情報や各種分析手法を適用したデータ分析結果を正確に理解し、その意味や背景を深く洞察するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> データ理解（ビジネス観点での理解、意味合いの抽出、洞察） データの理解・検証（統計情報への正しい理解、データ確認、俯瞰・メタ思考、データ理解、データ粒度）
		データ・AI活用戦略	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略や組織的課題、顧客ニーズ等を踏まえて、データ・AI技術を活用した課題解決方法や新たなビジネスモデルを提案するスキル 	<ul style="list-style-type: none"> 着想・デザイン（着想、デザイン、AI活用検討、開示・非開示の決定） 課題の定義（KPI、スコーリング、価値の見積り）
	データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	データ・AI戦略上の目的の実現に向けたアプローチを設計した上で、データ・AI分析の仕組みを現場に実装し、継続的に改善するスキル		<ul style="list-style-type: none"> アプローチ設計（データ入手、AI-ready、アプローチ設計、分析アプローチ設計、生成AI活用） 分析評価（評価、業務へのフィードバック） 事業への実装（実装、評価・改善の仕組み） プロジェクトマネジメント（プロジェクト発足、プロジェクト計画、運用、横展開、方針転換、完了・リースマネジメント、リスクマネジメント）

DSSにおける共通スキルリストの考え方(3/3)

- ◆経産省で実施している教育訓練講座の認定「第四次産業革命スキル習得講座認定制度（Reスキル制度）」では、DSSの人材類型を認定対象分野とし、講座内容とロール・スキルと紐づけて審査・認定している。
- ◆教育講座のポータルサイト「マナビDX」では、各講座とDSSのスキルやロールを紐づけ検索・学習できるようにしており、Reスキル認定講座もこのマナビDXに掲載される。

第四次産業革命スキル習得講座認定制度

「第四次産業革命スキル習得講座認定制度」は、IT・データを中心とした将来の成長が強く見込まれ、雇用創出に貢献する分野において、社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図る、専門的・実践的な教育訓練講座を経済産業大臣が認定する制度です。

認定対象

認定対象分野

人材類型を基準として
認定対象分野が設定されている

(i) IT分野

デジタルトランスフォーメーション推進
(ビジネスアーキテクト・デザイナー・データサイエンティスト・ソフトウェアエンジニア・サイバーセキュリティ)

人材類型	ロール	スキル									
		ビジネスアーキテクト		デザイナー		データサイエンティスト		ソフトウェアエンジニア			
ビジネス変革 ト・システム	プロジェクトマネジメント	a	a	d	b	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	要望・シナリオ	a	a	a	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	システムエンジニアリング	a	a	a	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	データ・ドリブン・アーキテクチャ	a	a	a	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	プロセス・マネジメント	b	b	b	b	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	ビジネス戦略	a	a	a	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	ビジネスアリス	a	a	a	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	機械・システム 学習	a	a	c	b	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	マーケティング	b	b	d	b	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
	ブランディング	b	b	d	c	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト
顧客・ユーザー理解	b	b	c	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	
情報収集・定義	b	b	c	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	
設計	d	d	d	b	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	
検証・確認	c	c	c	a	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	
その他のデザイン	d	d	d	c	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	データサイエンティスト	

講座内容とスキル(特に重要度aのスキル)の対応、およびそれに紐づいてロールも対応付けられる

マナビDX キーワードで検索 例) Python、ビジネスアーキテクト、ITパスポート

デジタルリテラシー講座 デジタル実践講座

3つのカテゴリから
“あなたにぴったりな講座”を見つけよう！

リテラシー講座 から探す

学習できるスキル から探す

目指すロール から探す

ビジネス変革

データ活用

テクノロジー

セキュリティ

その他

リテラシー講座 から探す

学習できるスキル から探す

目指すロール から探す

ビジネスアーキテクト

デザイナー

データサイエンティスト

ソフトウェアエンジニア

サイバーセキュリティ

国の指定・認定

教育訓練給付制度 (厚生労働省) (82)

第四次産業革命スキル習得講座 (経済産業省)

その他 (0)

DSSのスキルやロール、および
Reスキル認定講座で検索・学習で
きるよう設計されている

3. 閉会